



NPO/  
**SORUCA**  
NonProfit Organization/Soft Resources of Urban and Country Association

通信

2015  
桜

会員 各位殿

平成27年3月31日

巻頭言

NPOソフトインダストリー研究会  
理事長 白石 嘉宏

## 非対象戦争—解説その2

2001年9月11日アメリカ国内線の4機がハイジャックされ、そのうちの2機がニューヨークの世界貿易センタービルに突入しました。この時このソルカ会報では「非対象戦争」という見出しで「テロ」ではなくこれはこれからの時代の戦争の姿になる、という解説をしました。戦争は時代とともに変化して行きます。昔は戦闘を専門にする集団同士の戦いでした。日本なら武士と武士、西洋なら騎士と騎士が。それも初期は堂々と名乗りを上げて正面から戦い合いました。

時代が下り第一次世界大戦になってくると、戦いは大規模・長期・広範囲にわたり行われるようになり戦いに勝つには継続的に物資を製造・供給するところを絶たないと勝てないということになり兵器工場や戦場に物資を運ぶ郵送船が襲われるようになり、対象とする範囲が拡大しました。

第二次世界大戦では兵器工場でもなく戦闘員でもない場所と人まで、戦いに勝つため・早く終わらせるため・自国の兵員の損耗を少なくするためという理屈で家も人も攻撃対象になりました。

東京大空襲が代表的ですが、日本は64の都市が焼夷弾で人もろとも焼き尽くされました。とどめは広島と長崎への原子爆弾です。

現代では宇宙からは監視衛星で、空からは無人機で、通信は傍受され監視されています。兵器は巡航ミサイルなど各種のミサイル兵器、航空母艦と音速を超えさらにレーダーに写らないステルス戦闘機、地上では最新の戦車や夜でも戦える暗視装置などなど。このような国から攻撃対象にされた対象は同じレベルで戦うことなど戦う前から完敗は必至です。

イスラム国が行っている戦いは「テロ」ではなく、進化し続ける「戦争」なのです。これからの戦争は人が暮らしている全てが対象となるのです。戦いを誘発するような経済格差、宗教を始め文化面での差別、血・人種にたいする偏見などを乗り越える規範を作り上げることがこれからは必要になります。

## SORUCA 通信 contents

- 非対象戦争
- 現代の姿から
- 前回セミナーから
- 「主要耐久消費財の推移」
- 空き家と住宅の変化
- 次の日本の価値は？



## 現代の姿から

私たちはこの国の中で暮らしています。今、どんな状態なのかお金の面からこの国を見てみましょう。

金利は限りなくゼロに近づいています。昭和47年(1972年)当時銀行からのお金を借りると5%程度の利息は取られました。今では日銀が銀行に貸し出す政策金利は0,1%です。銀行は貸し出したお金を一杯持っていますだから。

銀行は昔のように皆からお金を預けてもらう必要はありません、だから利息はほとんど無いのと同様にしました。そのうち預かり料を取られるかも。

老人を対象にした詐欺の金額が去年は559億円になりました。銀行から一度に引き出せる金額は50万円です。それも近頃では銀行のATMにもいろいろ注意を促す画面が出てきます。それなのになぜ数百万円とか1千万円を超える被害がでるのでしょうか。

その答えは銀行預金ではなく筆筒預金があるからです。すぐに持って出かけることが出来るからです。利息が無ければ銀行に置いておく意味がありません。

空き家が13%を越えているのに毎年100万戸の家が建ち、都心の高額マンションが良く売れています。安い住宅ローンで家を買うことが出来るからです。

株価は上昇。銀行に預けても金利が少ないから利回りを期待するなら株とか不動産投資をせざるをえません。

一方物価は20ヶ月連続で上がり続けています。前年同月比2,2%の上昇です。一世帯あたりの消費金額は実質5,1%も減りました。人々の生活は円安のおかげで食料品を始め全てが値上がりしましたから消費を控えざるをえません。

1ドル80円だった円が120円と50%も下落したので、日本の国際的順位は27位に下落。アジアでも6位になりました。所得はシンガポールの半分です。

世界の経済の10%以上を占めていた。というのは遠い昔話になりました。

期待するのは下落した「円」の国に買い物と観光に来る人たちが使ってくれるお金です。つまり安売りバーゲン国家に成り下がった成果です。



## 前回セミナーから

2P目のぼやきの根拠を前回セミナーで行いました。概略紹介します。

はじめに紹介するのが年収です。

ご覧になってわかるとおり、年収300万円以下の方が全体の40.9%、一方1000万円以上はわずか3.9%しかいません。400万以下となると60%を越えます。

派遣社員が増えると年収の少ない人はさらに増えるでしょう。

国民の大半が贅沢な暮らしをしているわけではなく、何とかやりくりして凌いでいるという姿が浮かんできます。

### 階層ごとの平均年収の詳細

国税庁の民間給与実態統計調査結果より階層ごとの年収データを分布グラフでまとめてみました。

グラフの詳細値は下記のようにしております。

階層	男性(単位:万人)	男性割合(%)	女性(単位:万人)	女性割合(%)
100万円以下	88.4	3.2	333.1	17.6
100万円台	205.1	7.5	493.3	26.1
200万円台	370.3	13.4	411.7	21.8
300万円台	515.0	18.7	294.3	15.6
400万円台	471.7	17.1	168.4	8.9
500万円台	357.1	13.0	90.2	4.8
600万円台	232.4	8.4	41.0	2.2
700万円台	164.5	6.0	23.4	1.2
800万円台	110.3	4.0	12.5	0.7
900万円台	69.8	2.5	7.2	0.4
1,000～1,500万円	124.3	4.5	12.5	0.7
1,500～2,000万円	26.7	1.0	2.5	0.1
2,000～2,500万円	7.5	0.3	1.0	0.1
2,500万円越	10.4	0.4	0.9	0.0

統計元: 国税庁 平成25年 民間給与実態統計調査結果

次に皆がどのような設備を持つ家に住んでいるかです。

日本人は清潔好きです。風呂トイレの水周りがどうかを

「住宅の浴室・トイレの水周りの推移」から目撃しよう。

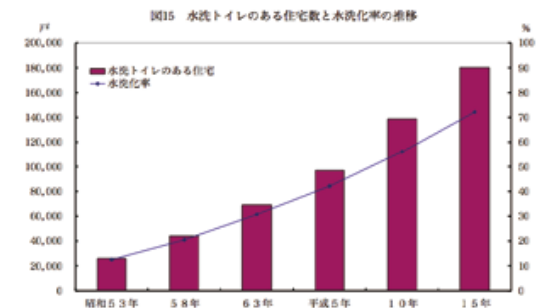


表16 水洗トイレのある住宅数と水洗化率の推移

(単位: 戸, %)

	昭和33年	昭和58年	昭和63年	平成5年	平成10年	平成15年
水洗トイレのある住宅	26,000	44,100	69,100	96,800	138,800	180,200
住宅総数	207,800	214,900	225,000	229,800	247,500	249,500
水洗化率	12.5	20.5	30.7	42.1	56.1	72.2

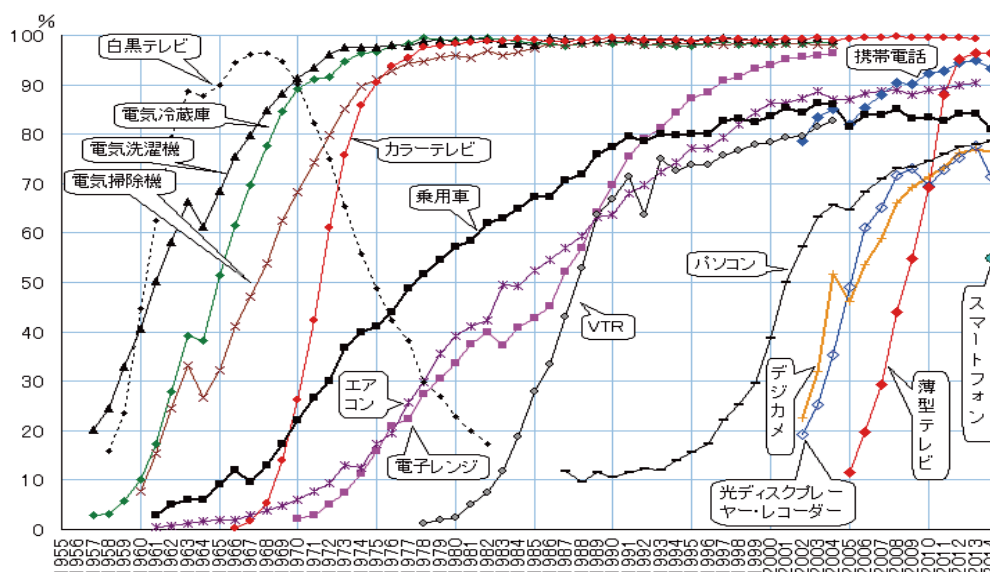


「主要耐久消費財の推移」のグラフです。

三種の神器と言われた冷蔵庫、洗濯機、テレビはすでに30年も前に限りなく100%に近づいています。自動車は80%に向かい減少していますが、高齢化が進みその上大都市へ人の集中が進み続けます。大都市では公共交通機関が整っていますその上駐車料金などが生まれますから緩やかな減少を続ける可能性があります。かろうじて伸びる可能性のあるのがスマートフォンです。

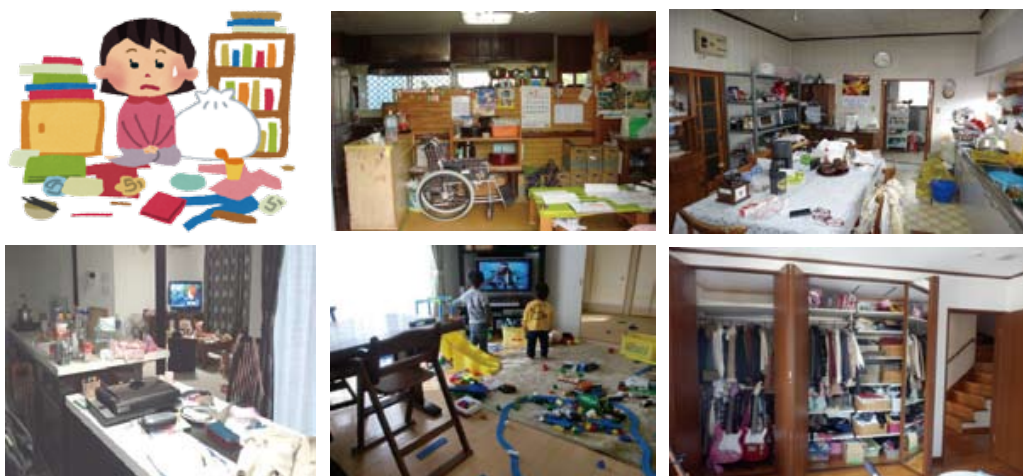
前のグラフと併せて見ると新たな設備や危惧・機器などこれ以上買ってもらうのは無塚しいでしょう。メーカーも販売店も国内市場では大変な努力を重ねていることが見て取れます。

主要耐久消費財の世帯普及率の推移



(注) 単身世帯以外の一般世帯が対象。1963年までは人口5万以上の都市世帯のみ。1957年は9月調査、58～77年は2月調査、78年以降は3月調査。05年より調査品目変更。デジカメは05年よりカメラ付き携帯を含みます。薄型テレビはカラーテレビの一部。光ディスクプレーヤー・レコーダーはDVD用、ブルーレイ用を含む。カラーテレビは2014年からブラウン管テレビは対象外となり薄型テレビに一本化

(資料) 内閣府「消費動向調査」



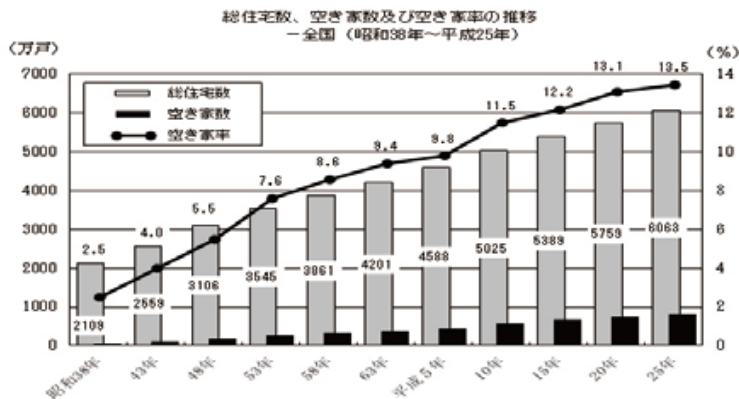


## 空き家と住宅の変化

お金、清潔な暮らし、持ち物を見ましたので次は家です。  
普通家は狭くなったからとか古くなったから建て替えると思いがちですがこれからは違って行くでしょう。

今までの見てきた通り欲しいモノはほぼ行き渡っています。ですから今を基準とすればこれからはほとんど全ての市場が縮小してゆくと思われます。  
その判断の元は高齢化、人口減少が続いていますが、さらに2019年には世帯数も減少に転じるからです。世帯が減るということは家も、その家に対する設備・用具も、さらに家の中に置くテレビや冷蔵庫のような耐久消費財も世帯数の減少とパラレルに少なくなって行ってしまうからです。

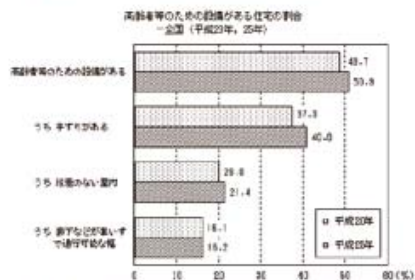
「住宅総数、空き家数及び空き家率の推移」のグラフです。  
世帯数は増えていたのですが、それでも空き家は増え続けています。2年前の平成25年時点で空き家率が13.5%になっています。住宅総数は増え続けていますからこれからはさらに加速する可能性があります。  
日本では欧米のように家の手入れをしながら住み続けるということより年式が変わり新しい性能の車が出てくるとそれまでの車を手放し新車を買うように、断熱性能、ソーラー発電、水素ガス発電、床暖房など機能が向上した住宅を、また、高齢化に伴い交通の利便性がさらに良いところへ、戸建てのように手入れを自分でなくて済む集合住宅へ、同様にバリアフリーなど身体への負担が少ない家を求めるようになって行きます。



高齢者などのための設備がある住宅が初めて半数を超える。

太陽光を利用した発電機種の普及率は、5年前に比べ、3倍増

- ・高齢者などに配慮した住宅設備のある住宅は2655万戸で、5年前に比べ、2.2ポイント（240万戸）上昇し、住宅全体に占める割合は50.9%
- ・設備の中でも、「手すりがある」が5年前に比べ、3.5ポイント（272万戸）上昇



- ・太陽光を利用した発電機種の普及率は、5年前（52万戸）に比べ、3倍増

## 次の日本の価値は？

日本がバブルに突入するまで、経済成長を続ける中で海外のデザインや暮らし方を模倣することが盛んでした。たとえばスキー場のデザインやその周りのペンション。そこで出される食事など、それが発展した姿、豊かさの表現と思っていたのです。それがインターネットの普及、旅費が安くなったことなどから、旅行者数が増え、それとともにサプライヤーからの情報だけでなく最終消費者が情報の発信者になって来ました。たとえば渋谷のスクランブル交差点を渡る体験をする、温泉に入っている猿を見に行くなど、従来であれば観光資源と思われなかったものがネットを通じて動員力が上がっています。

つまり、その国独自の自然や文化、生活習慣が評価されるようになって来ています。そんな流れの中でアメリカの Travel+Leisure 誌で京都が 2014 年ベストシティランキングで世界第一位に選ばれました。

オリンピック誘致の時のキーワード「おもてなし」で代表される心遣い、文化遺産になった和食など、この国が長い時間をかけて醸し出し磨いてきた自然、文化、習慣が評価され始めました。

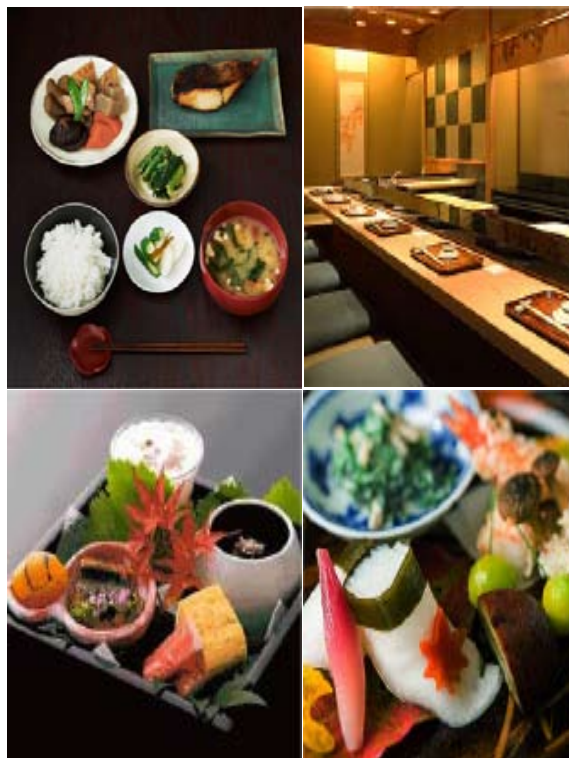
モノはすでに飽和状態です。私たちはこれから古い、田舎くさい、不便で非効率としてそぎ落としてきたものを再評価し、暮らす日々を時間を過ごす過ごし方全体を見直し、愛でる、楽しむ、寛ぐ暮らし、さらにはそれらを商品化することで経済 GDP 主義から次の高みの暮らし GHP（H はハッピーネス）段階に進む時に来ているのです。物を買えば GDP に反映されますが、物をもらおうとカウントされません。手作品、家庭菜園は経済にカウントされませんが、心の喜びはどうでしょうか。

▶ 2014年 ワールドベストシティ 上位10都市

1位	京都（日本）	90.21点
2位	チャールストン（アメリカ）	90.18点
3位	フィレンツェ（イタリア）	89.99点
4位	シェムリアップ（カンボジア）	89.82点
5位	ローマ（イタリア）	89.61点
6位	イスタンブール（トルコ）	89.58点
7位	セビリア（スペイン）	89.28点
8位	バルセロナ（スペイン）	89.18点
9位	メキシコシティ（メキシコ）	89.07点
10位	ニューオーリンズ（アメリカ）	88.74点

▶ 2014年 アジア地区 上位10都市

1位	京都（日本）	90.21点
2位	シェムリアップ（カンボジア）	89.82点
3位	バンコク（タイ）	88.32点
4位	東京（日本）	85.35点
5位	香港（中国）	84.89点
6位	上海（中国）	83.56点
7位	ハノイ（ベトナム）	82.77点
8位	西安（中国）	82.48点
9位	北京（中国）	81.61点
10位	シンガポール	81.29点



会員の菊地さんとは 30 年来の友人です、その彼から元気なうちに自身が経験したことを書いておいて欲しいと言われて来ました。ですが、私の周りでは「自分史」を出す人が結構いて、貰うたびに……。ところが安部総理が戦後 70 年の談話をこの夏を目処にまとめる、とのことですので、私は私を通しての思い出を書くことにしました。文中出てくる人たちはネットで検索すれば出てきますがアドレスも表示しておきます。

私は昭和 17 年 2 月 2 日の生まれです。生まれは芝区神谷町（現港区）。父は農商務省から独立して会社を興しました。その会社は戦争が拡大する中で軍需産業の一翼を担うことになりました。最終社名は興亜航空工機です。事業は拡大し成金になりました。私が生まれたので家を新たに設けることになり、陸軍大将でその後首相になった林銑十郎 (<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9E%97%E9%8A%91%E5%8D%81%E9%83%8E>) の家を購入しました。ここを購入したのは庭の築山の下が防空壕になっていたからです。6 畳ほどの畳敷きの間と、その前が同じぐらいの広さの土間になっていて、その土間の向かい側に幾段もの棚があり、缶詰や食料品などがぎっしり置いてありました。なぜかはっきり覚えています。防空壕は自宅の地下室から廊下でつながっていました。

昭和 20 年 5 月 25 日の山の手大空襲の時に日本の飛行機が B-29 に体当たりしその B-29 のエンジンが我が家に落ちてきたそうです。3 月 10 日の下町大空襲では 10 万人の方が焼け死にましたが山の手大空襲ではその時の 2 倍の焼夷弾が投下されました。表参道だけでも 2500 人が焼け死にました。

父は当日自宅に居ませんでした。母と母の弟、女中や下男は防空壕に入らず新宿御苑に逃げました。当時は側溝（ドブ）があったのでそこを伝って逃げたそうです。現在のように暗渠になっている上全てアスファルトに覆われている道では逃げることは出来ません。ドブを伝って逃げたのはドブの底に水があったので道路が焼けてもそこだけは焼けなかったからです、新宿御苑は当時皇室の持ち物ですから庶民は入ることが出来ません。しかし火に追われて生きるか死ぬかの状況ですので門が開かれ皆それで助かりました。私はそのときに右目の神経が侵され、左目は普通ですが右目はうまく動きません。私の家に防空壕がある、ということは近所の人は知っていたようで、新宿御苑まで行くことをあきらめた人たちは我が家の防空壕に逃げ込みました。防空壕に入った人は周囲全てが焼けるので酸欠になり気の毒に皆さん亡くなってしまったそうです。この日より前に日本橋の社屋、落合の工場など全て焼失していたので、住むところがなくなりました。

【書き残しておくこと：火から生き残るには石油系で出来た衣類、靴、持ち物があるとそれらの品々は全て焼けます。今ほとんどの人がはいている靴の底は石油系の製品です。熱は伝導・対流・輻射という性質があります。火災旋風が起こりますし、アスファルトの道路は石油そのものですから、道路が火の海になります。舗装されていない道、ドブが命を救います。道路には車があるでしょう、タイヤもさらに車にはガソリンタンクもあります。全てものすごく燃えるでしょう。国が出している災害の被害者数は想定が上記のようなことを考慮しているかどうか。都市に住むことは災害にあつたらすぐに水と緑の豊かな所に逃げるルートを見つけておいてください。】



< 編集後記 >

。(渡辺)

SORUCA のホームページの画面です。 <http://sorca.p2.weblife.me/>



## 「特定非営利活動法人ソフトインダストリー研究会」 広報誌 SORUCA 通信 (2015年桜号)

発行責任者 白石 嘉宏  
発行所 NPO ソフトインダストリー研究会  
東京都新宿区矢来町 47 番地  
TEL: 03-3266-1769  
FAX: 03-3266-1764  
<http://sorca.p2.weblife.me/>  
編集人 渡辺 勝範・長谷川 毅  
発行日 2015年3月31日



発行元 :NPO ソフトインダストリー研究会